

生物多様性とESD

「流域でつなぐ」

流域思考で解き明かす。



川廷 昌弘
一般社団法人CEPAジャパン
2013.10.19

生物多様性とは、、、

人類は生物の多様性のもたらす恵沢を享受することにより生存しており、生物の多様性は人類の存続の基盤となっている。

また生物の多様性は、地域における固有の財産として地域独自の文化の多様性も支えている。

(「生物多様性基本法」の前文より)

あなたが「自分や家族の未来」に不安を感じるものは、ありますか？

博報堂生活総研「生活者(Vol.6)」

このデータを参考に
地球や地域の環境問題の起点を考えてみる

大気汚染(4位)

地球温暖化(9位)

森林問題(30位)

生物多様性(31位)

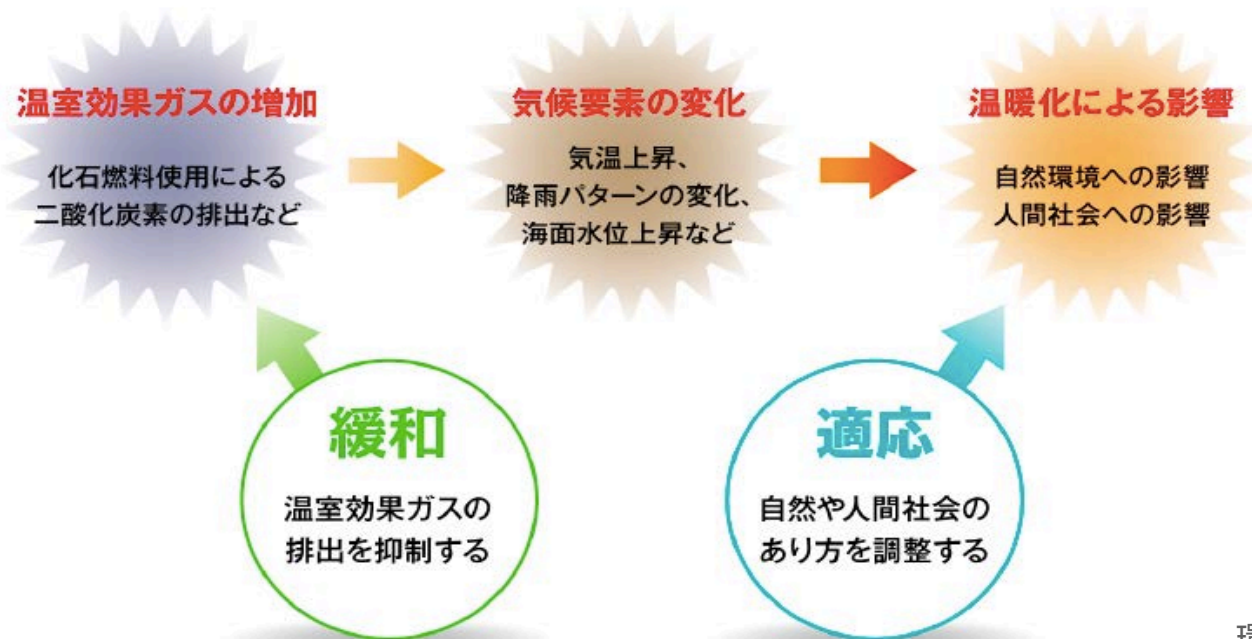
※アンケートになかった「異常気象」というキーワードも目立つ

上位の「地球温暖化(気候変動)」から意識が希薄な「生物多様性」をつなぐのが適切

気候変動の2つの対策「緩和と適応」

緩和策とは、
気候変動の原因となる温室効果ガスの排出抑制

適応策とは、
気候変動の影響に対し自然や社会のあり方を調整



環境省の資料引用

流域 Watershed

川が降水（雨水、雪融け水など）を集めつつ流れる範囲・領域

- ・持続可能な未来
地球の限界と未来世代への責任を自覚する開発(発展)
- 1) 生物多様性とともにある持続可能な未来
生命圏への再適応
- 2) 生物多様性との共存を必須と考えない持続可能な未来
宇宙船地球号として宇宙脱出も視野に入れた持続可能
管理の追求

ESD

安全で、豊かで、自然の賑わいとともにある
持続可能な未来を実現するために…

- ・貧困と戦乱からの開放
- ・世代間倫理の重視
- ・地球生命圏の限界と可能性の再発見
- ・自然災害に強い社会の育成

地球温暖化 緩和・適応文明の構築

- ・生物多様性保全を重視する文化・社会の構築

生物多様性を愛し保全のために行動する市民の育成

雨降る大地は、
流域(=流域生態系)の入れ子構造でできている。

生命圏のその秩序に即し
生物多様性の保全回復・実践・教育は
水循環が大地を区切る

<流域>

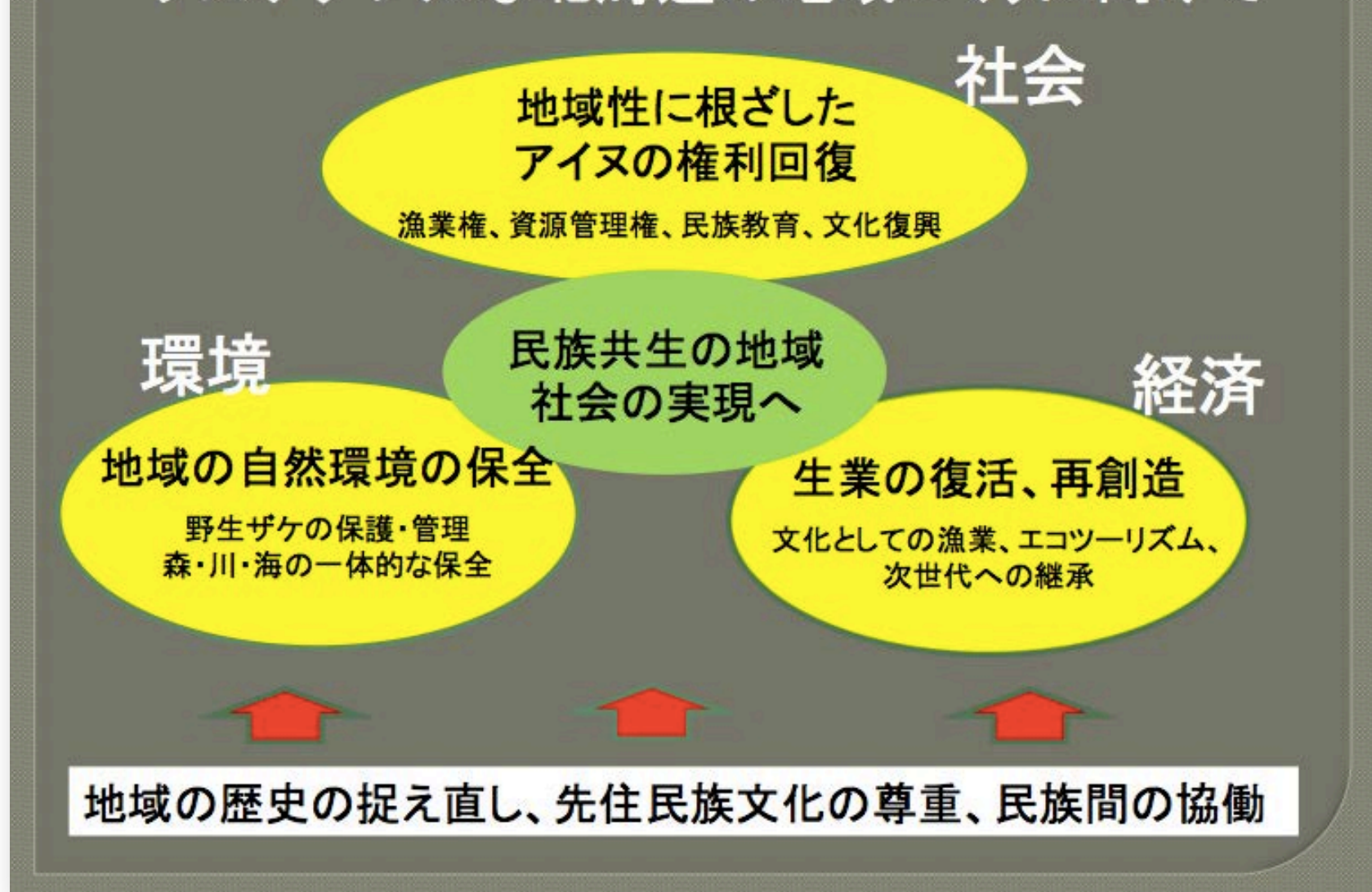
を単位にすすめよう



流域思考の生物多様性戦略

| | | 保全管理の枠組み | | | |
|-------|--------|----------|-----|----|----|
| | | 行政区 | 生態系 | | |
| | | | 生態系 | 里山 | 流域 |
| 生物多様性 | | △ | ○ | ○ | ◎ |
| 資源管理 | | △ | ○ | ○ | ◎ |
| 防災 | 地震 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 津波 | ○ | ○ | | ◎ |
| | 洪水土砂災害 | △ | △ | △ | ◎ |
| | | | | | ★ |

サステナブルな北海道の地域づくりに向けて

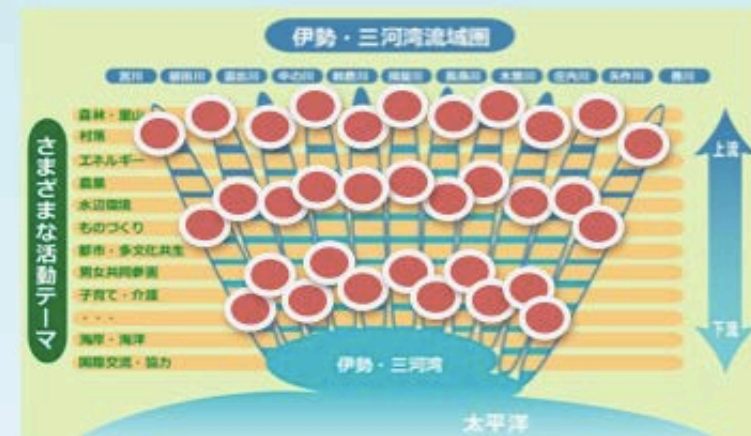


2014年に向けた「中部ESD拠点」の活動

中部ESD拠点「2014年プロジェクト」

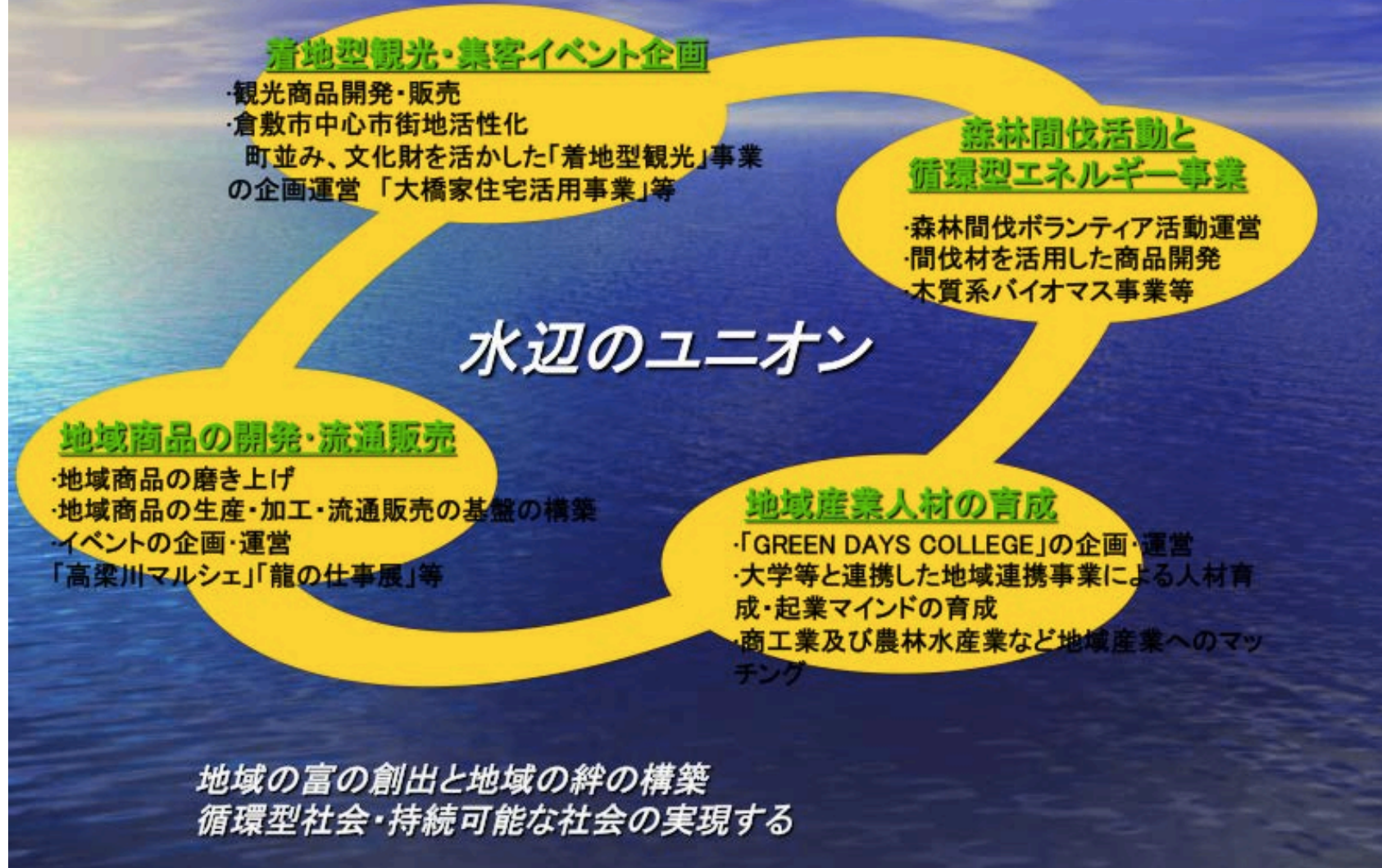
■ 伊勢・三河湾流域圏ESD講座

1. 持続可能な地域づくりのための課題と取組みの抽出
2. 活動をエンカレッジする「流域圏ESD講座」の実施
3. 持続可能な流域圏づくりの「全体フォーラム」



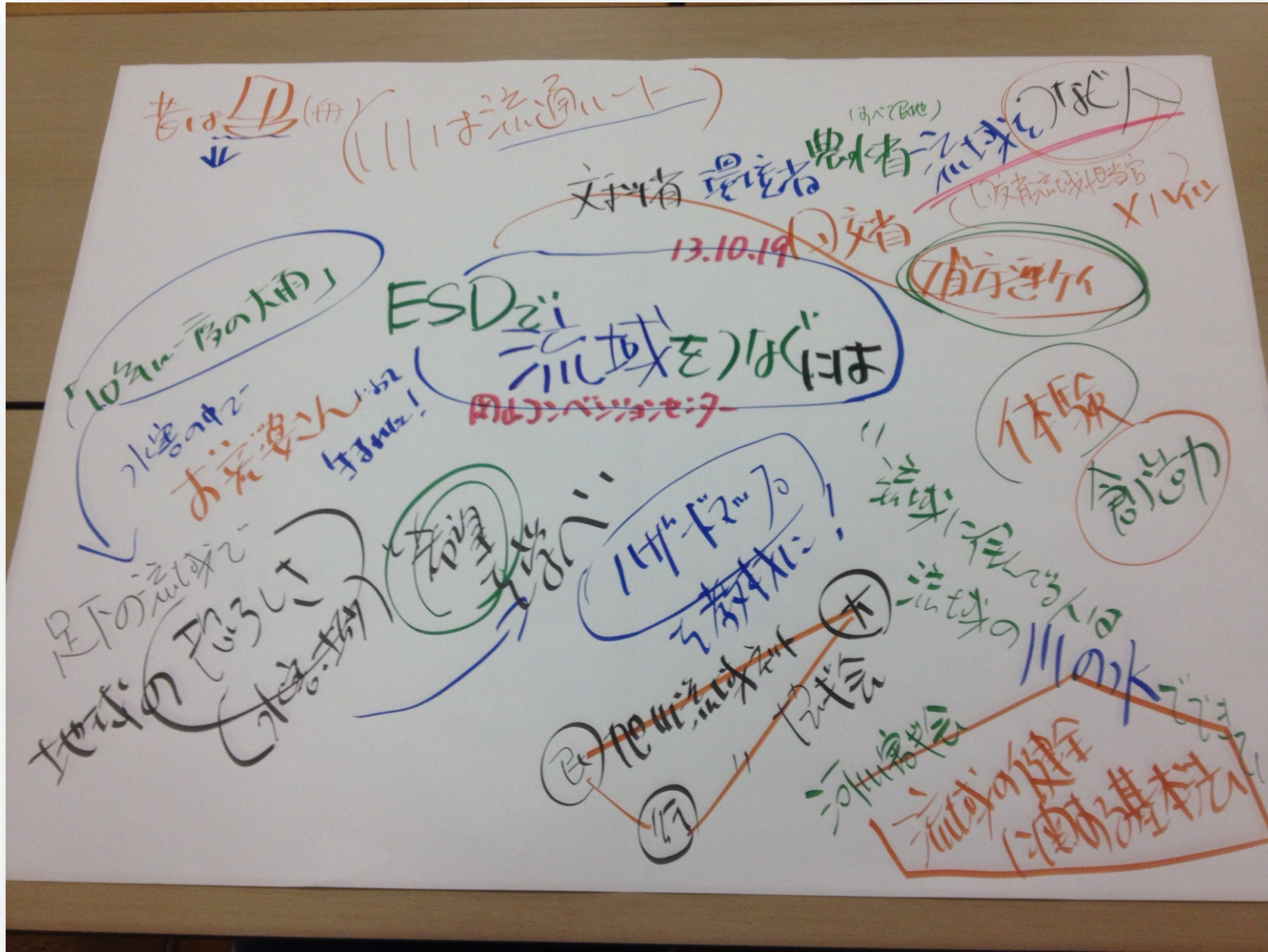
流域でつなぐ (中部ESD拠点事務局長 古澤礼太氏の資料より)

事業スキーム



流域でつなぐ (水辺のユニオン専務理事 岡野智博氏の資料より)

ESD & Biodiversity



流域でつなぐワールドカフェ(ファシリテーター森良氏)

「流域思考」の「生物多様性とESD」は、地域と人、自然と暮らしをつなぎ、災害にも強い社会で未来につなぐため以下の提案をまとめた。

- 1、
ESD省庁連絡会議の実施
文科省、環境省、国交省、農水省、総務省、、、
- 2、
流域の健全に関する基本法の策定
- 3、
上記を踏まえたESD活動事例をアーカイブし、地域ガバナンスを徹底し、背中を押すための表彰制度を検討していく